

## 2 研究の実際

### (2) 本研究における「思考力・判断力・表現力等」についての考え方

#### ア コミュニケーション能力

広辞苑によると、コミュニケーションとは、「① 社会生活を営む人間の間に行われる知覚・感情・思考の伝達。言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする。② 動物個体間での、身振りや音声・匂いなどによる情報の伝達」<sup>(1)</sup>とあります。知覚・感情・思考を伝達するときに、言語や文字だけでなく、五感を通して感じることを全てが伝達的手段となることが分かります。

また、外国語ワーキンググループにおける審議によると、外国語によるコミュニケーション能力について、「外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語を通じて、身近な話題から社会や世界、他者との関わりの中で幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりすることができる能力（下線は筆者による）」<sup>(2)</sup>としています。

本研究では、前述の「他者」の中から、一人を対象として考え、「相手」としました。そして、コミュニケーション能力を、「相手を意識しながら、言葉に加え非言語情報も含めた伝達手段を使ってやり取りされる知覚・感情・思考を伝達する能力」と捉えることにしました。

#### イ 外国語活動において育成を目指す資質能力の「思考力・判断力・表現力等」

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』や、外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめでは、外国語活動及び外国語科において育成を目指す資質能力の「思考力・判断力・表現力等」について次のように示されました。

表 1 外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力の整理

	思考力・判断力・表現力等
外国語活動 小学校	○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の周りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力
外国語科 小学校	○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

○外国語教育における学習過程では、児童生徒が、  
 ㉞設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解する、  
 ㉟目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、  
 ㊱対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、  
 ㊲言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うという  
 ①プロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていったりすることが大切になる。

中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』

平成 28 年 12 月 p. 197

番号、下線、改行は筆者による

小学校では、その目標を達成するために、身近で簡単なことについて聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力が求められる。そのためには、

- ②児童が興味関心のある題材について聞いたり話したりする必然性のある活動の設定が重要である。
- ③児童同士、または児童と指導者との豊富なやりとりを通して、どのようにしたら自分の思いが相手に伝わるか、相手の思いが理解できるか、思考を働かせることで伝え合う力を高めることにつながる。また、
- ④新しい情報を得たり、心が動いたりすることで、言葉の有用性や、言葉でやりとりをすることの大切さを体験的に理解することにつながる。

中央教育審議会 『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成 28 年 8 月 p. 20

番号、下線、改行は筆者による

また、直山木綿子は、外国語活動における思考力・判断力・表現力等を身に付けた子供の具体的な姿を、次のように述べています。

外国語活動は、その特色から、他教科とは違い、思考し、判断したことを、外国語を使って表現することになる。そのため、外国語を使って表現されることは、その年代の子供が母語で表現していることとは比較しようもないほど稚拙かもしれない。

しかし、子供たちは、⑤どうすれば相手に自分の思いがより伝わるか、相手の思いをより理解できるかを思考し、もっている知識や技能を、場面にあわせて活用している。このような姿が、思考力・判断力・表現力等を身に付けている具体的な姿であると考える。

直山 木綿子 「外国語活動における思考力・判断力・表現力等を身に付けた具体的な姿」『初等教育資料』 文部科学省 平成 28 年 6 月 p. 46

番号、下線は筆者による

そこで、本研究では、「思考力・判断力・表現力等」を、「慣れ親しんできた外国語の表現や非言語情報なども含めた伝達手段を使って、相手のことを意識しながら自分の思いや考えを伝える力」と捉えます。

## ウ 「思考力・判断力・表現力等」を育成する授業の手立て

「2 研究の実際(2)イ」に示した資料の下線部を参考にして、「思考力・判断力・表現力等」を育成する授業の手立てを考えました。

- ① プロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていったりすることが大切

### 手立て 1

#### 【単元構成の工夫】

児童が設定されたコミュニケーションの目的を理解し、見通しをもって活動をするために、単元のゴールであるパフォーマンス課題を位置づける単元構成を工夫することで、児童は主体的に活動するようになると考えます。

- ② 児童が興味関心のある題材について聞いたり話したりする必然性のある場面の設定が重要  
 ④ 新しい情報を得たり、心が動いたりすることで、言葉の有用性や、言葉でやりとりをすることの大切さを体験的に理解することにつながる。

### 手立て 2

#### 【必然性のある活動の場面の設定】

高学年の児童の発達の段階や興味・関心にあった身近なコミュニケーションの場面で、普段、友達に対してあまり問わないような内容でも、友達とやり取りをすることを通して、友達との関わりを大切にしながら、友達や自分の良さをよりよく再認識していくと考えます。

- ③ 児童同士、または児童と指導者との豊富なやりとりを通して、どのようにしたら自分の思いが相手に伝わるか、相手の思いが理解できるか、思考を働かせることで伝え合う力を高めることにつながる。  
 ⑤ どうすれば相手に自分の思いがより伝わるか、相手の思いをより理解できるかを思考し、もっている知識や技能を、場面にあわせて活用している。このような姿が、思考力・判断力・表現力等を身に付けている具体の姿である

### 手立て 3

#### 【パフォーマンス課題の設定】

日常生活を見つめ、伝えたい内容を盛り込んだパフォーマンス課題を設定することで、児童は、使える外国語や非言語情報等を駆使して、どの表現を選んで使うかを思考し、相手意識をもって伝えたいことを表現するようになると考えます。

以上のことから、児童が相手意識をもって思考を働かせ、外国語等を使って表現する力を高めるには、**単元構成を工夫してパフォーマンス課題を設定し、児童にとって思いや考えを伝えたい必然性のある活動の場面**を取り入れた指導が有効であると考えます。

パフォーマンスとはスピーチや劇などの表現であり、パフォーマンス課題とは、そのパフォーマンスを発表するときの目的や相手を考えた課題と捉えます。児童は、単元でどのような課題に取り組むのかという見通しをもつことで、主体的に活動をするようになると考えました。

次頁図 1 には、パフォーマンス課題を設定した単元構成の中で働く児童の相手意識を表しています。児童は、それぞれの過程で、相手意識をもって思考を働かせていくであろうと考えます。

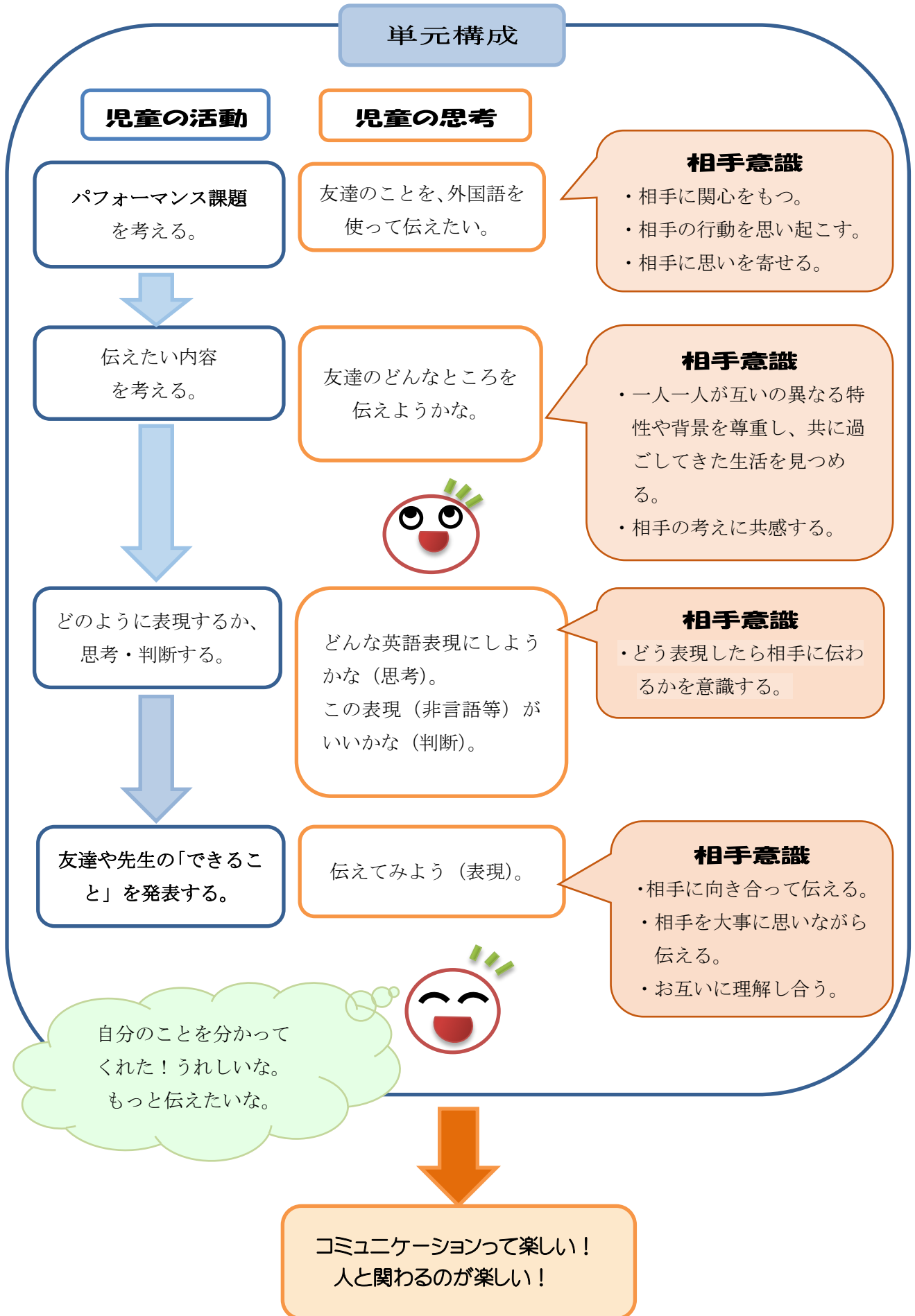


図1 パフォーマンス課題を設定した単元構成の中で働く児童の相手意識

## 2 研究の実際

### (3) パフォーマンス課題を設定した単元構成

本研究では、児童が思いや考えを伝えるパフォーマンス課題を設定した単元構成を考えました。

過程	時	児童の活動	評価		児童の思考 相手意識が働いている思考に下線	教師の指導
			コ	慣気		
課題を考える 発表内容・伝え方を考える 伝える	1	<p>英語表現に出会う。</p> <p>日本語と英語との音声や意味の違いに気付く。</p> <p>パフォーマンス課題を設定する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>発音の仕方や強調するところが日本語と違うな。</li> <li>日本語と意味が同じところと違うところがある。</li> <li>友達のことを、英語を使って伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な活動を通して具体的に気付かせていく。</li> <li>児童にとって身近な相手や日常生活についての課題を考えさせる。</li> </ul>
	2	<p>外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむ。</p> <p>繰り返し聞く 聞いて反応する 話す 表現する 尋ねる 答える 伝え合う 反応する</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>よく聞いたり相手の様子を見たりしたら、相手が何を言いたいか分かった。</li> <li>英語を使って尋ねたり答えたりする言い方が分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の中で使用する語彙や表現を、多様な方法で繰り返し聞かせたり、言わせたりする。 ゲーム アクティビティ チャンツ 歌</li> </ul>
	3	<p>課題の発表に向け、どのような内容をどのように伝えるか、考える。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>友達ががんばっている姿や良いところを伝えたい。</li> <li>相手にどの事柄を伝えようかな。</li> <li>どの言葉や表現を使ったら伝わるかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な文化の存在を知り、様々な見方や考え方があることに気付く。</li> <li>身近な相手の日頃の様子を慣れ親しんできた言葉や非言語を使って表現させる。</li> </ul>
	4	<p>発表する。</p> <p>活動を振り返る。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のことを英語を使って伝えることができた。</li> <li>友達が自分のことを発表してくれた。うれしい。</li> <li>もっと友達のことを伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を使って事実を伝えさせ、その理由も加えて発表させる。</li> </ul>

## パフォーマンス課題を設定した単元構成と児童の思考力・判断力・表現力等について

## ア 「課題を考える」過程

思考力

パフォーマンス課題を設定する。

児童が主体的に学ぶために、身近で興味関心をもつ題材のもと、聞いたり話したりする必然性のある場面の設定をし、児童が聞いたり話したりしたいと思うような活動を仕組みます。児童にとって身近な相手や日常生活についての課題を考えさせ、単元の終末に発表するように、児童と共に課題を設定します。自分のことを発表するのも良いのですが、より相手意識をもって思考を働かせるために、友達のことを見つめ、友達のことを発表する機会にします。そうすることで、2時目以降の慣れ親しむ活動での、単元のゴールを見据えた児童自身の主体的な学びにつながってくると考えます。



児童の思考・・・友達のことを伝えたい。

たくさんの友達のことを、英語を使って伝えたい！

思考力・判断力

## イ 「発表内容・伝え方を考える」過程

発表に向け、どのような内容をどのように伝えるか、考える。

相手を意識し、他者を尊重しながらやり取りすることができる能力を育成することが大切です。児童は、普段の生活の中の友達の行いを見つめ、友達のどんな姿を伝えようか思考します。そして、慣れ親しんできた言葉から適切な語を選んだり、これまでに学習してきた言葉と組み合わせたりして、どの言葉を使い、どの手段を使って、相手に伝わるように表現しようか思考します。児童は、表現の仕方を友達と話し合ったり、ALT に質問したりして表現方法を決定していきます。伝えたいことが先にあり、それに合わせて、表現内容や方法を決めていきます。



児童の思考・・・友達のどんなところを発表しようかな？

どの英語を使おうかな？ ALT に尋ねてみよう。

絵も見せながら伝えようかな。

思考力・表現力

## ウ 「伝える」過程

友達や先生の「できること」を発表する。

児童は、英語や非言語を使って友達や先生に関する事柄を表現して伝え、その理由も加えて発表します。伝えたい事柄のみではなく、その理由も伝えることで、友達や先生に対する思いも伝わります。



児童の思考・・・友達や先生の良いところを英語も使って伝えることができた！

友達が自分の良いところを伝えてくれた！

《引用文献》

- (1) 新村 出編 『広辞苑』 岩波書店 平成20年 1 月 p. 1055
- (2) 中央教育審議会 『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成28年 8 月 p. 1
- (3) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 p. 197  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)
- (4) 中央教育審議会 『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成28年 8 月 p. 20  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377057\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377057_1_1.pdf)
- (5) 直山 木綿子著 「外国語活動における思考力・判断力・表現力等を身に付けた具体の姿」『初等教育資料』 文部科学省 平成28年 6 月 p. 46